

令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金対象事業

事業番号		1			
事業概要説明書					
事務事業名		おおいたの未来を牽引する事業者育成体制整備事業			
担当部局		商工労働観光部	担当所属	商工労政課	担当班 商工業企画担当班
事業期間		令和3年度～令和7年度	交付金の種類	地方創生推進タイプ	
実施方法		☐ 直接実施()			
		☒ 業務委託(委託先:特定非営利活動法人BEPPUPROJECT)			
		☐ 補助金(補助先: 実施主体:)			
		☐ その他()			
事業の概要	目的	本事業は、クリエイターを活用した中小企業者の販路開拓に関する取組を支援することで、創造的人材の育成や商品の高付加価値化による競争力強化がもたらす地域産業の活性化を目的としている。 「第3次大分市商工業振興計画」において、成長産業の1つとして「クリエイティブ産業」の育成を掲げており、中小企業等が持続可能な成長を遂げるためには、様々な分野で従来の枠に囚われない新しい価値を創造し、より付加価値の高い商品・サービスの開発や、企業のブランド力向上の必要性がこれまで以上に求められるため、「クリエイティブ産業の裾野の拡大」、「市内クリエイターの育成」、「クリエイターの発想や技術を活用した中小企業等の販路拡大」を図ることを目的に、クリエイティブ産業育成事業として「おおいたデザイン・エイド」を実施した。			
	事業内容	※本事業は大分県を中心に大分市や他の自治体との広域連携により交付金の採択を受けている。 OR5年度までの実施概要 H30年度からR2年度は、ビジネスにデザイン思考を取り入れ成功した経営者や第一線で活躍するクリエイターによる講演会並びに本市内中小企業の商品パッケージデザインのリニューアル等を課題にしたコンテストを開催し、デザイン経営の普及啓発、クリエイターと企業とのマッチング機会の創出、中小企業等の販路拡大を支援してきた。 R3年度・R4年度は、講演会を講座に変更し、デザイン経営が実践的に学べる場を提供し、中小企業のデザイン経営の導入を支援し、企業のブランド力の向上に寄与した。 R5年度は、中小企業の事業者とクリエイターが共同し、デザイン経営の手法を用いて事業プランを策定するワークショップを開催した。ワークショップの最終回に、参加者による事業プランの発表を行い、優れた事業プランを選定するコンテストを実施した。ワークショップ及びコンテストを通じて、企業およびクリエイターへデザイン経営が実践的に学べる場を提供し、企業のデザイン経営の導入の支援、企業とクリエイターとのマッチング機会の創出、企業の販路拡大の支援、クリエイターの活躍の場の提供に寄与した。 また、大分県内の若手クリエイター及び学生を対象に、大分市の抱える課題をデザインの観点で解決するプランを募集するコンテストを開催し、若手クリエイター及び学生へ学びと挑戦の場を提供した。 OR6年度の事業内容 1. デザイン経営キャンプの開催 県内のクリエイターと大分都市広域圏の事業者が共同で事業構想を組み立てる、短期集中型のワークショップとして『デザイン経営キャンプ』を実施。実践コースは全6回のワークショップを経て事業を構想する。中間発表では山田 遊 氏 (バイヤー／株式会社 メソッド代表取締役) による個別アドバイスを受けた。聴講コースはワークショップの一部を聴講可能とし、講師の指導や、企業とクリエイターがデザイン経営に取り組む様子を見学した。 【受講者数】 デザイン経営基礎講座:27名、(第1～6回)実践コース:4組(事業者4名、クリエイター5名(4社))、 聴講コース:10名 【開催日】 令和6年 9月25日(水) デザイン経営基礎講座 10月23日(水) 午前 第1回「チーム編成」 10月23日(水) 午後 第2回「課題の抽出」 11月13日(水) 第3回「事業構想の組み立て」 12月6日(水) 午前 第4回「中間講評会」 12月6日(水) 午後 第5回「ブラッシュアップ」 令和7年 1月24日(金) 第6回「公開プレゼンテーション」 2. 『次代のクリエイター発掘! ソーシャルデザインプランコンテスト』の実施 クリエイター及び学生を対象に、大分市及び大分市内企業の抱える課題をデザインの視点で解決するプランを公募。8つの課題を提供し、コンテストの題材とした。【応募作品】82点 3. おおいたデザイン・エイド2024 表彰式・展示会の実施 デザイン経営キャンプの公開プレゼンテーションで決定した1組の最優秀賞の表彰、および各作品の評価ポイントや審査員による講評とともに、ビジネスとデザインが出会うことによって期待できる変化などをわかりやすく、説明した。また、同会場でパネルでの展示会も行った。 日時:(表彰式)令和7年2月22日(土) 11:00～12:00 (展示会)令和7年2月22日(土)～28日(金) 場所:荷揚町複合公共施設1階コモンスペース 来場者数:228名(7日間合計)			

年 度		令和6年度(予算)	令和6年度(決算見込)	令和7年度(予算)		
事業費		11,000 千円	9,994 千円	0 千円		
財 源	国庫支出金	3,000 千円	2,000 千円	千円		
	県支出金 等	千円	千円	千円		
	一般財源	8,000 千円	7,994 千円	0 千円		
経費内訳 (令和6年度 決算見込ベース)		委託費:9,994千円 【特定非営利活動法人BEPPUPROJECT】 ・デザイン経営キャンプ 5,693千円 ・次代のクリエイター発掘! ソーシャルデザインコンテスト 2,879千円 ・おおいたデザイン・エイド2024 表彰式・展示会 1,422千円				
事業実績・目標 (大分県の指標)		重要業績評価指標(KPI)		目標値 (令和6年度)	実績値 (令和6年度)	達成率
		①経営革新計画終了企業の雇用増加数(人)		158	48	30%
		②事業承継相談対応件数(件)		50	104	208%
		③デザイン経営個別相談会の参加者(人)		180	24	13%
実績評価		おおいたデザイン・エイドを通して、「クリエイティブ産業の裾野の拡大」、「市内クリエイターの育成」、「クリエイターの発想や技術を活用した中小企業等の販路拡大」に寄与できた。具体的な実績は、下記の通り。 1. デザイン経営キャンプ 全6回で「デザイン経営キャンプ」を開催し、デザイン経営を実践的に学ぶ機会を創出することができた。また、最終回では、実践コースの受講生全員(4組)が事業内で学んだ事を生かしたビジネスプランの発表を行った。 2. 次代のクリエイター発掘! ソーシャルデザインプランコンテスト 次代のクリエイター発掘! ソーシャルデザインプランコンテスト内で出た一部のデザインについては、活用を予定している。 3. おおいたデザイン・エイド2024 表彰式・展示会の実施 約4ヶ月間のデザイン経営キャンプで、取組んだ4組の事業計画をパネル展示した。また、『次代のクリエイター発掘! ソーシャルデザインコンテスト』への応募作品も同時に展示した。				
今後の方向性		今後の方針	事業の終了 (行政主導から地域関係者の自走型・連携型取組へ移行)			
		当初は令和7年度まで本交付金の活用を想定していたが、令和6年度までの取組により、クリエイターと中小企業者のマッチング促進、デザイン経営の導入支援、若手人材の育成といった当初の目的について、一定の成果が得られたと判断した。 一方で、複数年度にわたる継続的な実施により、対象層へのアプローチが一巡し、参加者の集まりが徐々に低調となる傾向も見られた。このことから、交付金事業としての効果的な展開が難しくなってきた面がある。 こうした点を踏まえ、事業として一定の到達点に達したと判断し、交付金事業としては令和6年度をもって終了することとした。今後は、これまでの成果を基盤に、行政主導から地域関係者による自走型・連携型の取り組みへ移行していくことを想定している。 令和7年度以降は、行政が直接的な支援事業を継続する形ではなく、これまで構築したクリエイター・企業・教育機関等とのネットワークを活かし、情報発信・人材紹介等の間接支援を行うことで、地域内での自律的な展開を後押ししていく。				
外部評価委員からの意見		・今までの事業実施で培ったナレッジやネットワークを生かして、企業・クリエイター等への伴走支援をしていただきたい。 ・クリエイターの育成について、大学との連携や活用を検討していただきたい。				

令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金対象事業

事業番号		2				
事業概要説明書						
事務事業名		戸次本町地区にぎわい創出事業				
担当部局		都市計画部	担当所属	まちなみ整備課	担当班	市街地整備担当班
事業期間		令和4年度～令和6年度		交付金の種類	地方創生推進タイプ	
実施方法		☐ 直接実施（ ）				
		☒ 業務委託又は指定管理(委託先又は指定管理者:㈱茅嶋工務店他)				
		☒ 補助金(補助先:プロジェクトチーム「在戸蔵(あるとくら)」 実施主体:同左)				
		☐ その他()				
事業の概要	目的	戸次本町地区では、江戸時代末期から戦前にかけて建築された建造物が現存しており、その歴史的まちなみの景観形成を図るため、これまで、地区計画の決定や戸次本町街なみ環境整備事業などで統一された伝統的なまちなみ形成を図ってきた。また、地区住民で構成されている「戸次本町街づくり推進協議会」においてまちづくりの取組みを行ってきた。しかし、かつての在町のにぎわいが創出されているとは言えないため、これまでのハード整備から今後はソフト施策に転換し、「歴史的まちなみの利活用」、「まちづくりの担い手育成」、「新たな魅力の創出・発信」の3つの視点から事業を推進することで、地域住民や観光客によるにぎわい創出及び持続可能なまちづくりに寄与することを目的とする。				
	事業内容	(1) 地域主体支援（令和4～6年度実施） にぎわい創出を担う新たなプロジェクトチームを立上げ、市指定文化財である帆足本家酒造蔵をはじめとする既存施設を活用した企画の立案及び運営を行い、自主自立して継続的に活動できる組織体制の構築を支援する。 【事業推進主体】プロジェクトチーム「在戸蔵(あるとくら)」 (2) 魅力創出・発信プロモーション（令和5年度実施） 戸次本町地区について効果的な情報発信、新たな魅力の創出及びその活用を行うことで、対外的な認知度の向上とイメージアップを図る。 【委託先】大分朝日放送㈱ ※プロポーザル方式により選定 (3) 低速車両(グリーンスローモビリティ)連携（令和5年度実施） 大南地域を運行するグリーンスローモビリティを活用し、戸次地区のイベント開催時に観光客の移動支援を行う。また、車両ラッピングや魅力発信モニター設置により、戸次地区を含む大南地域のPRを行う。 【委託先】＜運行＞大分タクシー㈱ ＜ラッピング＞極東印刷工業㈱ ＜モニター設置＞大分音響㈱ (4) 地域間連携（令和5～6年度実施） 歴史や特産物が共通する臼杵市等と連携するイベントを行い、都市間の交流を促進するとともに、相互の魅力発信につなげる。 【委託先(R5)】＜企画＞㈱FUKUO ＜運営＞合同会社タハラコムデザインオフィス ＜設置＞㈱四季祭 【委託先(R6)】＜企画＞㈱たべごとカンパニー、＜運営・設置＞合同会社タハラコムデザインオフィス (5) プロジェクトチーム組織運営構築（令和6年度実施） 地元組織に対してまちづくりに関する専門知識やスキルを学ぶ研修を実施し、地域のまちづくりへの意識の向上及び気運の醸成を図る。 【委託先】㈱茅嶋工務店 ※プロポーザル方式により選定 【支援措置によらない独自の取組み】 (6) 空き店舗等活用支援事業補助金(令和3～6年度実施) 戸次本町地区の空き家・空き店舗への出店について、改装費、備品購入費、広告宣伝費を補助する。				

年 度		令和6年度(予算)	令和6年度(決算見込)	令和7年度(予算)	
事業費		7,563 千円	7,346 千円	2,384 千円	
財源	国庫支出金	2,050 千円	2,049 千円	0 千円	
	県支出金 等	0 千円	0 千円	0 千円	
	一般財源	5,513 千円	5,297 千円	2,384 千円	
経費内訳 (令和6年度 決算見込ベース)		(1) 地域主体支援 2,000千円 【補助】プロジェクトチーム「在戸蔵(あるとくら)」 (4) 地域間連携 1,448千円 【委託】㈱たべごとカンパニー、合同会社タハラコムデザインオフィス (5) プロジェクトチーム組織運営構築 1,498千円 【委託】㈱茅嶋工務店 (6) 空き店舗等活用支援事業補助金 2,000千円 【補助】neel(雑貨店)、studio YUKI(美容室) その他報償費、需用費等 400千円			
事業実績・目標		重要業績評価指標(KPI)	目標値 (令和6年度)	実績値 (令和6年度)	達成率
		①まちづくり人材育成数 (在戸蔵メンバー新規加入数)(人)	5	3	60%
		②既存施設(文化財施設や広場等)利用件数(件)	6	9	150%
		③空き家・空き店舗への出店数(件)	2	2	100%
実績評価		(1)地域主体支援 ・戸次本町の店舗経営者などにより組織されたプロジェクトチーム「在戸蔵(あるとくら)」が主体となり、歴史的まちなみを活用してマルシェや縁日などの取組みを実施し、にぎわい創出に寄与した。また、取組みを通じてメンバーを増やすとともに、イベントの出店料収入や物販の売上により活動資金を確保することで、継続的に活動できる組織体制構築を図った。 ・組織立ち上げから3ヵ年(R4～R6)で15人(各年度5人)のメンバー増加を目標として活動する中で、令和5年度時点で目標を達成しており、令和6年度においても順調にメンバーが増加している状況である。現在は戸次本町の店舗経営者の大半が加入している状況であるため、現メンバー数を維持しながら新たに出店があった場合に加入を促す等、今後も引き続きメンバー確保に取り組む。 ・イベント実施は前年度より2回多く実施したが、総来場者数が前年度より微減であった。イベント回数が増えたことにより各イベントの周知が十分に行えなかったと考えられる。 ＜メンバー数＞R5年度 15人 → R6年度 18人(3人増加) ＜実績＞イベント等実施回数 9回 総来場者数 約2,850人 (4) 地域間連携 歴史や特産物が共通する臼杵市および豊後大野市と連携し、「うすきとぶんごおおのとへつぎの樂食文化祭」を開催。各都市の交流を促進し、相互の魅力発信につなげた。 ＜実績＞イベント来場者数 約1,500人 (5)プロジェクトチーム組織運営構築 地元組織に対し、取組先進他都市(尾道市)との交流会やまちづくりの専門家の講演会等の研修を実施し、まちづくり団体相互の横のつながりづくりや専門知識の習得を図った。また、最後の研修で次年度以降の取り組みアイデアを出し合い、まちづくりの活動継続の気運を高めた。 ＜実績＞研修実施回数 3回 参加者数 延75人 【支援措置によらない独自の取組み】 (6)空き店舗等活用支援事業補助金 　　＜実績＞補助件数2件			
今後の方向性		今後の方針	事業の終了(当初の予定通り事業を終了する)		
		本事業は地元主体の継続的なにぎわい形成を目的に事業を実施してきており、(1)～(5)の取組みを通じて、組織体制の構築や認知度向上、地元団体の気運醸成に関し一定の成果が得られたため、令和7年度以降は取り組みの主体を地元組織に移行させることとしている。 なお、独自の取り組みである(6)空き店舗等活用支援事業補助金については、空き家が地区内に残っている状況や地元の要望を踏まえ、令和7年度についても継続することとしている。			
外部評価委員からの意見		・広域での取り組みを行う際、連携している都市間で人の動きが見られるような循環が生まれるとよいと思う。			

令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金対象事業

事業番号		3			
事業概要説明書					
事務事業名		若手起業家育成事業			
担当部局		商工労働観光部	担当所属	創業経営支援課	担当班 創業支援担当班
事業期間		令和5年度～令和7年度	交付金の種類	地方創生推進タイプ	
実施方法		☐ 直接実施()			
		☒ 業務委託又は指定管理(委託先: 特定非営利活動法人まち・文化再生プロジェクト)			
		☐ 補助金(補助先: 実施主体:)			
		☐ その他()			
事業の概要	目的	本事業は、若者の地域定着と雇用創出を目指し、創業マインドの醸成や、新たな創業者・事業開発などのシーズの発掘・育成を図ることを目的とする。 そうしたなかで、起業の魅力や関連する知識等を講師が講演するセミナーや、学生を対象としたビジネスプランコンテストの開催、起業支援等を行う若手起業家育成施設の本格オープンを実施した。			
	事業内容	1. 起業セミナーの開催(委託先: 特定非営利活動法人まち・文化再生プロジェクト) 創業マインドの醸成のため、起業家等の講師を招き、起業の魅力や関連する知識、スキル向上等に関するセミナーを開催した。 対象者数 若者を中心にごなたでも受講可 参加者数 延べ330人 (R5: 延べ356人) 実施回数 16回 (R5: 18回) 2. おおいた学生ビジネスプランコンテストの開催(委託先: 特定非営利活動法人まち・文化再生プロジェクト) 大分都市広域圏内に居住、または通学する学生(高校生、高専生、短大生、大学生、大学院生、専門学校生等)の個人やグループを対象としたビジネスプランコンテストを開催した。 募集期間 R6.8.9～11.22 募集テーマ 社会課題や日常生活の中にある身近な課題等を解決する新製品やサービス、あるいは、地域づくりや地域活性化等に関するビジネスプラン 賞 金 最優秀賞(1組)30万円、優秀賞(2組)10万円、奨励賞(1組)5万円 応募者数 44組106人 (R5: 37組85人) 受賞者 4組 3. 若手起業家育成施設の本格オープン(委託先: 特定非営利活動法人まち・文化再生プロジェクト) 若者同士が出会い、交流を深め、情報共有等ができるコミュニティ機能や、起業支援等を行う若手起業家育成施設Mirattend(ミラテンド)を本格オープンした。また、本施設では、若者同士や先輩起業家等とのコミュニティ形成に向けた異業種交流会や、若者を対象に市内企業等が提供するリアルな課題をもとに、ビジネスプラン作成等を行う仮想起業体験「バーチャルベンチャー」を開催した。 場 所 大分市中央町2-8-3 開設日 R6.10.27 開館時間 11時～20時 ※毎週木曜、第2、4火曜、年末年始を除く 利用料金 無料 機能 起業相談、コミュニティスペース、ミーティングルーム、起業に関連するイベント等の開催等 開館日数 119日 利用者数 延べ3,022人 (R5: 延べ869人) 相談者数 延べ120人 (R5: 延べ 34人) 会員数 1,149人 (R5: 357人) 備考 異業種交流会: 計2回、26人参加、仮想起業体験「バーチャルベンチャー」: 5組7人参加			

年 度		令和6年度(予算)	令和6年度(決算見込)	令和7年度(予算)	
事業費		56,000 千円	53,297 千円	39,472 千円	
財源	国庫支出金	27,814 千円	26,318 千円	19,736 千円	
	県支出金 等	0 千円	0 千円	0 千円	
	一般財源	28,186 千円	26,979 千円	19,736 千円	
経費内訳 (令和6年度 決算見込ベース)		○若手起業家育成事業の企画・運営委託費:53,203千円 ・起業セミナー・おおいた学生ビジネスプランコンテストの企画・運営 ・若手起業家育成施設の設置・運営 ・広告宣伝費 ほか ○その他経費(事業者選定委員謝礼金、消耗品費等):94千円			
事業実績・目標		重要業績評価指標(KPI)	目標値 (令和6年度)	実績値 (令和6年度)	達成率
		市内創業支援機関等の支援による若年層の創業割合(%)	9.1	5.7	63%
		若年層の創業相談件数(件)	70	170	243%
		若手起業家育成施設の利用者数(人)	2,200	3022	137%
実績評価		1. 起業セミナーの開催 全国の起業家等を講師とし、起業に関連したテーマで開催し、330人の参加があり、参加者へのアンケート調査では、受講前後の起業への関心が7ポイント増加したことから、創業マインドの醸成に寄与した。 2. おおいた学生ビジネスプランコンテストの開催 高校生や大学生を中心とし、過去最高となる44組の応募があり、コンテスト実施後、受賞者を中心とし、事業展開に向けた若手起業家育成施設での伴走支援等を実施している。また、令和4、5年度応募者へのアンケート調査では、「起業した」もしくは「起業を考えている」と回答した人が10名いたことから、新たな創業者等のシーズの発掘・育成につながった。 3. 若手起業家育成施設の本格オープン SNSを中心とした周知・広報や、セミナーや異業種交流会、若者等による貸切イベント等を実施したことで、若者を中心に利用者数は延べ3,022人、相談者数は延べ120人となった。異業種交流会等のイベントによるコミュニティ形成に繋がるとともに、セミナーや相談対応等の起業支援によりシーズの発掘・育成に寄与した。 一方で、施設利用者の内訳を見ると、学生等のうち、高校生延べ722人、大学生延べ157人、その他学生延べ129人のため、大学生を中心とした更なる利用促進が必要。			
今後の方向性		今後の方針	事業の継続(計画通り事業を継続)		
		1. 起業セミナーの開催 全国の起業家等によるセミナーを実施し、引き続き、創業マインドの醸成を図るとともに、更なる起業の実現に向け、積み上げ式のセミナーを新たに開催することで、新たな創業者の発掘・育成の促進を図る。 2. おおいた学生ビジネスプランコンテストの開催 大分都市広域圏の高校や大学等と連携を図り、本ビジネスプランコンテストを開催し、学生による新たな創業者や事業開発などのシーズの発掘・育成につなげる。また、若手起業家育成施設のイベント等にて小・中学生の参加が見受けられたため、参加資格を拡大し、開催する。 3. 若手起業家育成施設の運営 若者を中心とした利用者や起業相談等の実態があったため、セミナーなどのイベントのほか、インフルエンサー等を活用した若者に向けた周知・広報、大分市産業活性化プラザや県内企業、高等教育機関等と連携した取組により、若手起業家育成施設の利用促進を図るとともに、若者を中心としたコミュニティ形成や新たな創業者や事業開発等の発掘・育成に努める。 KPIに掲げる創業相談件数や施設利用者数は、目標値を達成し、事業効果が着実に表れている一方で、若年層の創業割合は未達成となった。若者の創業相談において、事業計画の策定や資金調達、進路選択等に時間を要する傾向が見られ、例えばコンテスト受賞者においては、受賞から起業までに数年の時間を要した事例があった。 については、学生を中心とした若手起業家の発掘・育成においては、既存の取組に加え、事業構築や将来的なリスクを抑えた資金調達への支援、進路選択の一助となる起業家等とのコミュニティ形成を検討のうえ、長期的かつ継続的な支援を行いつつ、施設の利用状況等を踏まえた事業評価・見直しをするなかで、事業を進める。			
		外部評価委員からの意見			
		・若手起業家育成施設について、施設の利用を若者に特化するのではなく、企業の経営者や投資家、等身大の起業家等の様々な知見を持った方との交流ができる場となり、起業する際の資金調達や地元企業とのマッチングにつながる取組を更に進めていただきたい。 ・起業のプロセスへの支援の取組みを充実していただきたい。			